脇町（とくしまけん　わきまち）

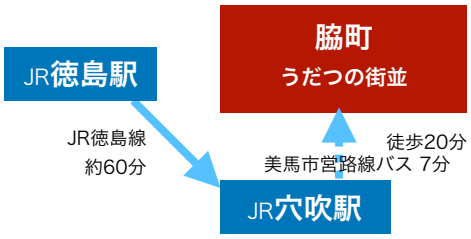
徳島市で仕事をしたら1泊して、翌日はJRの各駅停車にゆられて、「脇町/わきまち」にブリージャーWalk。
屋根の上に凛々しい「うだつ」を見上げながら、430mの街並保存地区を歩けば、なんとなく自分が立身出世するような予感がしてきます。
脇町は脇城の城下町として成立し、藍の集散地として江戸中期より大いに発展しました。一時は百を超える藍商人達が栄華を極め、連なる家並みには豪商たちの隆盛を顕示するかのように「うだつ」が上がります。
現在は江戸中期から昭和初期の85棟の伝統的建造物が建ち並んでおり、近世、近代の景観を残しています。
昭和63年に伝統的建造物群保存地区に選定されました。
徳島は藍染めの元となる藍染料「蓼（すくも）」づくりの本場として、現在もその伝統が引き継がれ、阿波藍（あわあい）と呼ばれています。
美馬市観光交流センターでは藍染め体験もできます。

「うだつ（卯建）」は隣家との境に2階の壁面から突出して作られた袖壁で、江戸時代は防火の、明治時代には装飾の意味を深めました。瓦葺き、家紋入りの豪勢な鬼瓦をのせた凛々しい姿は家格の象徴となりました。ことわざ辞典に…いつまでもぐずぐずして一向に出世できないことを「うだつが上がらぬ」と書いてあります。

うだつの町で立身出世に酔う
徳島県　脇町

「うだつの街並」に一歩踏み込めば、そこは江戸から明治時代にタイムスリップしたような街並。うだつに励まされながら、いつの間にか自分はお金持ちの豪商になった気分。●建築通なら忘れてならないのは脇町図書館。明治初期の農業用倉庫を修復したもの（1986年）。設計はいるか設計集団で必見です。●次にうだつの街並を抜けてオデオン座を見学。1933年竣工で、うだつの街並と打って変わった西洋モダン風。山田洋次監督の「虹をつかむ男」のロケ舞台となりました。
●町外れには1735年築の旧長岡家住宅があって、純農家の往時の生活をみることができます。1976年に重要文化財に指定されました。●うだつの街並に戻ったら吉田家住宅（1792年）で豪商の生活を偲び、藍蔵を改装したカフェ「藍蔵」でうだつロールを…。そして近くにはそうめんのビックブランドである半田そうめんの生産地つるぎ町（旧半田町）があります。

徳島駅から60分の「ついでの旅」



JR徳島駅から徳島線で脇町の最寄り駅である穴吹まで各駅停車でも1時間。穴吹駅から「うだつの街並」まではバスがあっても1日にたったの3本。穴吹駅前発は8:10、11:50、16:35なので、11:50分に併せて徳島を出るか、バスに頼らずに歩くか。バスでたった7分の距離です。バスは終点の「道の駅うだつ」で降ります。帰りは同じバスが折り返すので、8:20、12:00、16:45です。
美濃市観光情報「うだつの街並」
http://www.city.mima.lg.jp/kankou/kankouannai/miru/0002.html

オデオン座

脇町図書館

うだつの街並